

# 心込めた植林「育っています」

あまちゃん凄いけどやっぱり楽天



森管理人を自任する気仙事務所長が手入れ



東北支部事務所長 気仙浩一



皆さんこんにちは。今年2年目となった東北支部事務所長の気仙（けせん）です。出身は仙台市、前職は警察官として、宮城県警察に37年間勤務し、昨年3月に無事退官することが出来ました。その後縁あって日遊協東北支部にお世話になっております。

この業界については右も左も分からない私ですが、谷口支部長以下会員の方々など皆さんからの協力を得まして、これまで頑張っております。

事務所長としての最初の仕事が東京都・関東・九州支部をはじめ各支部の皆さんが南三陸町等の被災地で行っているボランティア活動への手助けであり、ボランティア隊員の受け入れや車両、機材の準備などでした。隊員の皆様大変お疲れ様でした。お陰様で被災地は復興に向けて歩み出しています。それでも、まだまだ思うように復興が進んでいないのが現状です。

また日遊協においては、社会貢献・環境対策の一つとして、今年5月17日に前会長である深谷相談役はじめ多くの会員が参加し、林野庁のみどりのきずな再生プロジェクトに参加し「仙台共生の森」

への植樹を行い津波で被災した仙台市若林区荒浜にクロマツ770本、ヤマザクラ70本の苗木を植樹しました。

参加したメンバーひとりひとりが被災地に思いをはせ、やがて緑の森になるよう一本一本に心を込め、時には森林サポーターからダメ出しを受け植え直したり

と悪戦苦闘しつつ二日間で割り当てられた敷地に無事植樹することができました。

私は薛委員長の下命を受け、以後、辞令を用いず仙台共生の森管理人として頑張っております。お陰様で発育は上々であり、森林管理局の方からも今のところお褒めの言葉をいただいております。

植樹場所の荒浜地域は、JR仙台駅から東に数キロ、太平洋に面し、冬でも温暖な住宅地でしたが東日本大震災により、高さ10メートル程の大津波が町を襲い仙台市



内では一つの町（地区）全体が壊滅的な被害を受け、多くの住民の方が犠牲となったのです。

今は更地となったこの地域ですが海岸の護岸工事が急ピッチで行われ、工事のトラックが頻繁に行き交っています。時折、大型バスや車が植樹場所近くにある犠牲者を弔う慰霊塔を訪れ、縁者と思われる方々が花を手向けている光景を目にします。

そんな辛い悲しい想いを一瞬忘れさせてくれた今年の夏の甲子園、東北球児が頑張ってくれました。後一步、残念でしたが優勝旗の白河越えも近いと確信しました。そしてもう一つ忘れてならないこと。じえじえ、いやーあまちゃんも凄いけど、やっぱりプロ野球東北楽天の快進撃でしょう。

マジック点灯（8月28日）で酒のうまかったこと。上機嫌で寝床に入り、星野監督が宙に舞い歓喜に湧く選手、ファンの姿を夢にみつつ、寝苦しい夜は更けていきました。ガンバレ日本、ガンバレ東北！